

町おこしディレクター神岡の

を目指すべきビジョン

嵐山町を愛する人を増やす

嵐山町というエリアは、何かによって決められたエリアではありません。そこに人が住み、他の人々とのかかわりあいの中で決めたエリアであると思います。その空間では、住む人々にとってさまざまな権利もありますが、義務もあります。それらすべてを認めつつ、当事者として関わることができると町民を増やすことが、持続可能な「まちづくり」・「まちおこし」を支える基盤だと思うのです。まずは、「まち」に、そして「まちおこし」に興味関心をもってもらうことから始めています！



移住者を求める前に、嵐山町に今住もう人の満足度を上げる

今住んでいる人が楽しく、心豊かに住み続けたくなる「まち」。そんな「まち」をつくり上げることが、最大の「まちづくり」・「まちおこし」だと感じています。より多くの方が、「好きなまち」、「私たちのまち」となることができれば、町民の皆さん自身が最高の営業マンとなっていきます。そして「我がまち」の宣伝をどんどんしてくれます。そんな「まち」、すてきですね。

住もう人が好きな情景や状況を作り上げていくことが重要だと考えています。



「創られた」観光ではなく、「等身大」の日常を観光として発信する

観光業で生計を立てている人がいない土壤に、観光による「まちづくり」は成立しないと言われています。嵐山町で観光を主業としている人は、何人いるでしょうか。大きな観光業でなく、田園風景



や農作業、田園などは今注目の観光資源だと思います。そして田・畑と台所の近さなど、すてきではないでしょうか。皆さんが暮らす嵐山町の「日常」は、観光資源になりつつあります。等身大を観光として、売り出していいかいいと思うのです。地域に根付く暮らし方のスタイルが都会に住む人たちにとって新しい魅力になっているのです。

神岡が考える ツーリズムとなり得る財産



地元酪農家牛舎



空き家古民家



自然に癒される神岡

ありのままの 日常がツーリズム

町おこしディレクター
神岡裕介



町おこしディレクター
神岡裕介（36歳）
埼玉県所沢市出身、東京都東久留米在住、公園建設メーカー、建築コンサルタント業務などを経験、平成28年12月より町おこしディレクターとして就任。



町おこしディレクターは、町の農業・観光・商業・工業などの地域資源をつなぎ合わせ、町内外からの交流を呼び起こし、新たな産業創出を図ることを目的として活動しています。